

28年度事業報告書

少子・超高齢化、人口減少が進むなか高知県は「日本一の健康長寿県構想」の推進取り組みを実施しているものの、地域社会を取り巻く環境は中山間地域においてはますます厳しさが増し疲弊が進み、抜本的な打開策は見い出せない状況である。一方、国内経済は企業の業績は概ね回復基調の見方があり、株価の上昇を始め順調に推移し2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向け景気回復の兆しが期待されているが、地方との経済や賃金格差は開くばかりである。日本政策金融公庫が示す1世帯当たりの平均世帯年収は560万円に比較すれば本県は大きく下回るものと想定される。本年度より、若者の県外流出を防ぐ施策として、奨学金返還支援制度(人材定着支援事業)が導入され、本校卒業生も申請しその対象に採用された事は、今後卒業を迎える学生らの県内就職希望に一筋の道を作る事となった。

28年度は組織体制を一部見直し、教職員が一丸となり高等学校訪問や業者ガイダンスに積極的に参画し、年間を通じ高等学校や関連施設に積極的な訪問活動に取り組んだ。結果、理学療法学科・作業療法学科ともに定員を確保充足する事が出来た。また、年度当初に掲げた運営目標(国家試験合格率100%、卒業率向上、退学・留年者数減少、受験者数向上、就職率100%)を教職員は強く認識し、目標をほぼ達成する事が出来た。

文部科学省の「職業実践専門課程」の認定を受け2年目となり、学校関係者評価、自己評価、授業評価等を実施し、併せ事業計画・報告、収支予算・決算報告についてホームページにて公表した。また、専修学校設置基準および指定規則の適正遵守に努めるとともに健全な学校運営に努めた。

全国専修学校組織より強い要望のもと、実践的職業教育を行う新たな高等教育機関として「専門職大学」の創設および学校教育法改正案の計画が検討され、29年度国会において法案が成立すれば、新たな学校種としてこれからの高校生の進路選択肢が広がる事となる。事前の情報収集も兼ね、文部科学省に出向き取り組みと進捗動向についてヒアリングを実施した。

学生たちが安心して学べる環境整備に努め、本校学生として生活面におけるスキル向上や社会性を育む教育を実施し、モラル研修や救急救命講習を実施し、社会に貢献できる人材の育成に取り組んだ。

本法人は、社会のニーズを踏まえ将来あるべき姿について模索検討し、教育理念・方向性を明確化し、社会に必要とされる人材の育成を模索しつつあらゆる可能性の検討を重ね、安定した学校法人の確立を目標に関係機関と連携協調し、役職員が一体となり取り組んだ。

法人部門

- 安定した財務基盤の確立
- 大学化への模索検討ならびに、情報収集を含めた関係機関との調整協議
- 教育環境の整備充実

1、適正な財産管理と安定した財務基盤の確立

構築物の修繕や部分的リニューアルを計画的に実施し、耐用年数経過した什器備品の更新を随時実施しており、特に教育に関係する物品を優先し充実を図りつつ、学生・教職員が有意義に過ごせる環境整備に努めた。築20年が過ぎた施設は、早期に発見修繕していくことが老朽防止につながる。修繕工事も含めた漏水防止シール補修等計画的に実施し、適切に維持管理を実施する。デマンド監視装置利用ならびに空調設備計画更新により、節電効果も効率的に進み、同時に常時点灯箇所は照明（LDE）への更新も図り、トイレは人感センサーを設置し消費電力の削減に努めた。教育施設におけるトイレの洋式化が昨今は注目されており、学生からも強い要望があり講義棟・福利棟部分について和式より洋式に変更した。

取引金融機関とは緊密な信頼関係を維持しつつ、自己資本の強化、経営基盤の安定に努めた。また、金融機関（事業承継）セミナーやBCP（事業継続計画）セミナー、労働局主催研修会等を通じ社会保険労務士と協議しつつ適正な労務管理に努めた。管理職研修として、リスク管理研修に参加し学校内におけるリスク管理や注意喚起のマニュアル整備を図った。

教育部門

1、学生の確保ならびに、教育環境の整備充実

入試要項の見直しをおこない、県内外の高等学校への訪問活動や業者主催のガイダンス（学校説明会）への教職員による積極的な参加の機会を通じ、本校の学生生活の様子や募集要項の説明伝達を行った。

オープンキャンパス（7回/年）の参加者数と入学志願者数と比例するので特に準備や実施に細心の注意を払った。また、高等学校PTAらの視察見学も受け入れ、高知市中心部に近い本校の立地・利便性や教育設備・環境をPRし、高等学校関係者や志望生徒・保護者からも高い評価を受けた。

その結果、入学者数は、両学科において定員を充足することを達成した。特に近年入学者が途切れていた、郡部の高等学校からも志願者を掘り起こすことができた。

先進医療機器のリース契約による導入を計画的に進め、学生が実習中においても一定の知識や経験を持てるよう、教員の研究や卒業論文の拡充のため教育什器備品の整備に努めた。

さらに、構築物全般の修繕や各教室の環境整備、機器更新、LED照明更新を計画的に行ない、学生が満足し学べる環境整備に努めた。

理学療法学科、作業療法学科専任教員を採用するにあたって教員選考委員会を軸に選考作業を行い、29年度より2名を採用した。

【具体的実施内容】

- 新聞・TV・ラジオ広告、電車・駅へのポスター掲示（有料）、県内外の医療関係施設へのポスター掲示依頼、パンフレットの設置依頼
- 進路説明会 業者主催（有料）、県内各高等学校主催、県専各連によるガイダンスへの参加

- 高等学校訪問 教職員による訪問ならびに、訪問模擬授業等の実施
- 情報発信戦略 IT委員会において情報発信戦略を見直し、ホームページの充実はもとより関連した「フェイスブック・ツイッター・ライン」等SNSに詳しい専任担当者を配置し、専門委員会(IT委員会)において、先進的情報を取り入れ随時発信
- 講義棟1FロビーにデジタルTVを設置し、学校情報(時間割・催事・その他)を随時配信

2、学生支援体制の充実強化

【学習支援】

留年生や退学者を発生させないために、学生の学ぶ意欲を高める取り組みに努めた。新入生は、専門教育を学ぶうえで必要な基礎学力の学習の機会を設け、専任教員による学習支援体制を整え、学習サポートを実施した。また、少人数を対象に教員がそれぞれの専門分野にて、学習支援を実践した。毎月開催する教授会において、情報と問題の共有化、連絡調整、危機管理対策について協議し、教務部(各学科)・学生支援室・事務局ともに部署会議を実施し、諸問題に対処した。国家試験への取組み対策として、4年生と科目等履修生を対象に教職員が一体的に協力し、年末より休祭日も学校施設を開放し精力的に学生の支援を実施した。多くの学生が資格取得し、履歴書に記載できるために各資格に対する学習支援ならびに、受験費用助成を実施した。【漢字検定、福祉住環境コーディネーター】

【就職支援】

求人募集は、理学・作業療法学科ともに県内外から前年を超える多くの求人募集があり、就職に関係したセミナーも定期的の実施した。9月に開催した就職説明会には県内外の多くの施設から来校され募集要請があり、学生は希望する就職先の担当者との貴重な面談の機会を持ち、希望する病院や施設への就職が達成出来た。

3、職業実践専門課程認定

職業実践専門課程の認定2年目においてより踏み込んだ内容の課題について検討をおこない、学校関係者や第三者委員も交えた教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会においては、現状の学校の状況を検証しつつ改善点や教育カリキュラムの検討、自己点検評価、情報公開、学生の学習意欲を高めるための方策など今後一層内外より評価されるための様々な取り組みを検討した。

4、学術発表と研究取組み

教員が学会において、その研究成果の発表、学術論文の発表に積極的に参加し取り組んだ。

学内の研究倫理委員会において、各研究の趣旨目的課題の倫理審査申請を検討精査し適正なる判断に基づき、研究支援ならびに成果達成検証を行った。

年度末、理学療法学科：竹林学科長・滝本講師2名が公益信託高知新聞・高知放送による「生命の基金」に採択され助成が決定した。また、作業療法学科：萩原講師の研究について(一財)全国職業教育・キャリア教育財団教員研究奨励事業に採択され助成を受ける事が決定した。

5、施設整備ならびに安全対策セミナーの実施

デマンド監視により日々の電力需要を監視し、事務所での集中管理により契約料金の削減に取り組んだ。

交通安全規範の啓発、高知東警察署・高知市防災対策課・高知市消防局・セコム(警備)等の協力により、津波避難訓練実施、防犯・防災講習会、救急救命講習会を実施した

- 消費生活セミナー（高知県消費生活センター） 4年生
- 防犯セミナー（セコム株式会社） 女子学生、教職員、地区住民
- 地震、津波防災避難訓練 学生、教職員
- 南海トラフ地震に備えて対策研修 学生、教職員
- 救急救命講習 3年生
- 構内安全対策 車輦減速凸の設置(3カ所)、駐輪場カーブミラー設置

6、地域貢献活動

学生の体験学習もかね、地域(大津地区)における「リハビリ体験講習」を理学・作業療法学科教員と学生の協力により実施し、中学生から高齢者まで幅広い世代に向けたセミナーを開催し定着した事業につながりつつある。

また、従前から実施している「香南市スポーツクラブ事業支援」、「山北地区いきいき体操」サークルの指導など積極的におこなった。

7月に実施される「浦戸湾河川一斉清掃活動」へ教職員、学生とともに協力参加した。

地域公開講座を開催し、リオパラリンピック日本代表選手：池透暢 氏を招聘し講演会を開催し関係団体や学生も聴講した。

7、その他

- 各種行事、新入生歓迎会、スポーツ大会、学祭「かんきつ祭」を実施しており、後援会未来会(卒業生)と協調し助成支援した。
- 職員の労働環境整備の改善に努めるとともに、学生相談の専任教員を学科にて配置し相談窓口対応した。